

第5学年総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立田隈小学校

遠入 哲司

1. 単元名 「自然からのメッセージ」

2. 単元の目標

- ・自然に生きる生き物の現状について調べ、プラスチックごみが大きな影響を与えていていることに気づく。
(知識・技能)
- ・プラスチックごみと海の生き物とのかかわりについて調べ、関連付けて説明すると共に、生き物の現状を改善するため、プラスチックごみを減らす方法について自ら証拠を探し、考えを作りだすことができる。
(思考・判断・表現)
- ・生き物を守るために、プラスチックごみを減らす方法を考え、周りの人と共に行動しようとすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(教材観)

日本は早くからリサイクルに力を入れ、環境教育にも積極的に取り組んできた。その結果、ペットボトルの分別回収などに取り組んでいる人は多い。一方で、現在はプラスチックごみによる海洋汚染が問題となっている。これは、プラスチックごみが投棄されていることや、プラスチックのリサイクルが十分ではない(マテリアルリサイクル 23%, ケミカルリサイクル4%, 発電によるリサイクル 56%)こと、回収されたもののプラスチックごみがリサイクルされずに放置されていること等が原因と考えられる。放置されたプラスチックや細かく分解されたマイクロプラスチックが海に流れ出し、それを摂取したり、絡まつたりした多くの海の生き物が落としている。それだけではなく、プラスチックごみを摂取した魚をさらに人間が食べることによる人体への影響も呼ばれるようになってきた。プラスチックごみへの対応は、海に住む生き物だけではなく、世界中にとって深刻な課題であるといえる。

本校の校区では、15 年前から学校のすぐ横を流れている室見川水系河川清掃が行われており、毎年、河川のごみ拾いに取り組んでいる。また、以前から廃油石鹼の制作等、環境問題に積極的に取り組む方々がおり、このような活動を子ども達にも広めたいという願いをもっている。

本校区で、プラスチックごみの問題について取り上げることは、世界で起きている課題と身近な人々が行っている活動を関連付けて考えることができること、身近な調査活動が可能であること、また、このような活動に参加できる環境があることなどの点から意味があると考える。

SDG's ④「質の高い教育をみんなに」

- ⑪「住み続けられるまちづくりを」
- ⑫「つくる責任つかう責任」
- ⑭「海の豊かさを守ろう」
- ⑰「パートナーシップで目標を達成しよう」

(児童観)

本校の児童はまじめであり、学習状況調査のデータによると、「困っている人がいたら助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「校区のよさを外国人の人などに伝えたい」などと回答する割合が非常に高く、よりよい社会のために積極的にかかわろうと考える子どもは多い。しかし、一方で、「身近な地域の活動に参加している」と回答する割合は低く、実際に、主体的に社会にかかわろうとする姿はあまり見られない。

学習については、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答する割合が高く、総合的な学習の時間における、調査、表現、交流などの活動を好む傾向がある。

この学習を通して、プラスチックごみの問題について取り上げることで、自ら調べ、話し合い、課題を解決しようとする能力が育つこと、また、これらの活動を通して、校区のよさを認識し、これからも校区のよさを続けていくとする態度が育つと考えられる。

(指導観)

指導に当たっては、次の3点の工夫を行う。

○ルーブリックの活用

ルーブリックを活用し、学習の導入の段階で学習の流れや目標を明確にすることにより、自分自身が学習を通してどのような姿になりたいかをイメージできるようにする。子ども達の学習の様子を見取り、「十分か」「まだ工夫できるところがあるか」「目標設定が難しくないか」などの観点から指導・助言を行うようとする。

※ルーブリック表は別紙

○調査・表現活動の工夫

調べたことを、分かりやすくまとめるために、3段階プリントを活用する。

【プラスチックごみを減らす為に】…自分の視点を明確にする。

- ①プラスチックのリサイクルを進めることができだと思う。
- ②プラスチック製品を使わないことが大切だと思う。
- ③プラスチックごみの影響をみんなに知らせるべきだと思う。

【自分の考えがプラスチックごみを減らすことにつながる理由】…関係性を明確にする。

- ①リサイクルが進めば、ごみとなるプラスチックが減るから
- ②プラスチックを使わなければ、プラスチックごみが出ないから
- ③プラスチックごみの被害を知れば、ごみを捨てる人が減るから

【具体的な証拠】…根拠を明確にする

- ①プラスチックリサイクルの有効性、具体的な方法 等
- ②プラスチック製品を使わない運動の実際 など
- ③知らせたい事実 など



基本形として、左のような発表資料に自分の考えを整理するようにする。必要な子には、自作資料を作成することを認める。

○交流活動の工夫

交流活動にあたっては、時間を区切り、3段プリントを活用して、1対1で多くの友達と意見交換させるようにする。

「リサイクルを進める」「プラスチックを使わないようにする」「プラスチックごみの影響を知らせる」の視点の中で、自分と考えが異なる子どもとの交流を必ず行うようにし、自分と友達の考えを比較するようとする。

また、交流では、発表する側は「1分以内で分かりやすく伝えること」、聞く側は「内容が理解できたか」「原稿を見たか、見ないか」「声の大きさ、速さは適切か」の観点から評価するようにする。

交流後は、友達の意見も参考にしながら、自分の考えを再度整理する。

⇒発展として、「室見川水系清掃後」の川の様子を提示し、プラスチックごみの問題は、個人の行動だけで解決するものではなく、多くの人々の協力、協働が必要であることに気づかせ、学校だけではなく、多くの人に考えてもらう方法についてさらに考えさせていきたい。

4. 評価標準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう力
<p>①生き物と私たちの生活とのかかわりを説明することができる。</p> <p>②プラスチックごみを減らす方法について資料をもとに考えることができる。</p>	<p>①プラスチックごみを減らす方法について、交流活動を通して自分の考えを説明することができる。</p> <p>②交流活動を通して、自分の考えを深め、広めることができる。</p>	<p>①自然を守り、プラスチックごみを減らすために自ら行動しようとする。</p> <p>②プラスチックごみを減らす必要性や行動について、周りの人々に伝えようとする。</p>

5. ESD との関連

(主に関連する ESD の価値観)

生物多様性などの自然環境の保全を尊重する

海の生き物の状況改善について考え、行動することは、自然環境の保全に直接かかわることになる。また、私たちが水産資源を食料として活用している以上、私たちの健康・安全とも大きくかかわることである。この学習を行うことは、人間を含めた生物多様性の保全につながっている。

世代内の公正と世代間の公正

現在の自然環境は、私たちが祖先から受け継いだものである。学習を通して、私たち人間の行動が自然環境に大きな影響を及ぼしていることを学ぶことで、これからも、私たちが自然から得ていた恵みをこれからの方々に残していくとする態度を育てるにつながっていく。



自然教室で海岸清掃をする子ども達



子ども達が集めたプラスチックごみの一部